

1. 開催概要

展示会名	黄金のアフガニスタン―守りぬかれたシルクロードの秘宝―	
開催施設名	会期	入場者数
九州国立博物館	2016年1月1日～2月14日	67,395人
東京国立博物館	2016年4月12日～6月19日	154,875人

●開催概要

アフガニスタンでは、長引く内戦やタリバン政権下での文化財破壊などによって、多くの文化財が失われてきた。その中には、アフガニスタン国立博物館所蔵の国宝級の文化財も含まれていると考えられてきた。

しかし、アフガニスタン国立博物館は所蔵品のうち特に重要な文化財を極秘裏に守ることに成功していた。これらの文化財はアフガニスタンの宝というだけでなく、人類共通の遺産として注目され、2006年から展示会というかたちで世界各国を巡回している。この国際巡回展は、シルクロード交易の拠点として栄えたアフガニスタン北部で出土した重要な工芸品など 231 件の考古資料で構成される。今回の九州国立博物館および東京国立博物館での展示では、金、ターコイズ、ラピスラズリ、象牙などを加工したジュエリーや彫像などから、シルクロード交易の特徴や、他地域との交流を背景に発展した文化を広く紹介することに成功した。また、流出文化財保護日本委員会が保護・修復したアフガニスタン流出文化財のうち 15 件をともに展示することで、日本が行ってきたアフガニスタンの文化財を保護する活動を紹介した。

近年、世界各地でイスラム過激派による文化財破壊などが相次いでいることもあり、時機を得た本展示会は「文化財を守る」という視点からも多くのメディアで取り上げられた。2015年8月15日読売新聞「流出文化財日本が救う」(解説スペシャル)、8月24日毎日新聞「アフガンに返還される文化財」特集(なるほドリワイド一頁特集)、2016年1月19日朝日新聞「戦乱の地守られた遺産」(鹿児島)、2月2日西日本新聞「失われた世界から」(文化面特集)、2月26日日本経済新聞「アフガンの宝 守った沈黙」(文化面寄稿)、4月24日産経新聞「戦争の被害から守りぬかれたアフガニスタンの貴重な宝とは？」(おやこ新聞一頁特集)、6月4日朝日新聞「略奪の文化財 アフガン帰郷」(夕刊一面トップ)など新聞各紙で詳しく紹介された。また、2016年5月7日にはNHK-BS1の2時間ドキュメンタリー「アフガン 秘宝の半世紀」も放送された。

このように広く国民に対し、この展示会の開催意義を伝えるとともに、素晴らしい文化財の数々を展示できたことは特筆すべきことである。また、主催社の枠を超え、多くのメディアで報道され、日本の文化財保護活動を広く知らしめることにも貢献できたと思う。

なお、当初、日本展の後はアメリカへの巡回が予定されていたが、アフガニスタン政府の指示により、文化財は米国ではなく韓国・ソウルの韓国国立中央博物館へ輸送された。

また、日本で保護・保管されてきた流出文化財は、本展にて展示した15件を含む102件すべてが、この機にアフガニスタンへと返還され、無事本国に輸送された。

※ 入場者数は開会式・内覧会を含む

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

以下のとおり国民的利益の還元積極的に取り組んだ。

■ 展覧会の開催要件

アフガニスタンとの契約書に、国家による文化財補償制度の適用が展覧会開催の必要条件として規定されていたため、本補償制度の適用が承認されてはじめて展覧会の開催が可能となった。また、アフガニスタン政府より、流出文化財保護日本委員会が保護・修復したアフガニスタンの流出文化財の返還が求められていたが、今回、文化財補償制度の適用を受けたことで、流出文化財の展示および返還のための追加費用等を工面することができ、九州会場も含めた同文化財の展示が可能となった。

■ 快適な鑑賞環境の維持と鑑賞機会の拡大

本補償制度を活用することにより、入場料の軽減および一部無料化を図り、より多くの国民の鑑賞機会の拡大に努めた。また、警備・誘導などのスタッフ経費を捻出することが可能になり、より多くの来場者に、安全かつ快適な鑑賞機会を提供することができた。

■ 教育普及活動の充実

九州国立博物館、東京国立博物館ともにそれぞれ3回の講演会を実施。

展示の工夫では、ティリヤ・テペ遺跡に埋葬されていた人物がまとっていた黄金の衣装の復元展示や、「魚装飾付円形盤」の精巧なレプリカを作成、実際に触れてもらうことで文化財への理解を深める契機となった。

クイズ形式になっている小中学生向けのガイドブックを作成し、会場内にクイズにあわせた展示パネルを作成することで、より興味を引き付けるよう工夫した。

また、東京国立博物館ではキッズデーをもうけ、親子向けにナイトミュージアムなども展開した。詳細は以下の通り。

【九州国立博物館】

■ 講演会

＜心魅するティリヤ・テペ文化 前田耕作氏講演会 アフガニスタン文化研究所長＞

2016年1月16日(土) 午後2時～3時

＜アフガニスタンに生命の水を 中村哲氏講演会 ペシャワール会＞

2016年1月9日(土) 午後1時30分～3時

＜オリエンタル・ベリーダンスショー＞

2016年1月11日(月・祝) 午後3時～4時

＜リレー講座 知られざる古代都市の秘宝 担当学芸員リレー講演会＞

2016年1月30日(土) ～31日(日) 午後2時～3時30分

「黄金の丘—ティリヤ・テペ」岸本圭(九州国立博物館)

「さまよえる黄金—ユーラシア・遊牧民の王墓」河野一隆(九州国立博物館)

「アイ・ハヌム—アレクサンドロス大王が造った都市」小泉恵英(九州国立博物館)

「ベグラム—東西文明の宝箱」臺信祐爾(九州国立博物館)

【東京国立博物館】

■講演会

＜私とアフガニスタン 松浪健四郎氏講演会 日本・アフガニスタン協会理事長＞

2016年4月17日(日) 午後2時～3時30分

＜バクトリアの秘宝を語る 前田耕作氏講演会 アフガニスタン文化研究所長＞

2016年4月23日(土) 午後2時～3時30分

＜世界遺産を護れ！—迫る危機をのりこえて— 井上洋一 東京国立博物館学芸企画部長＞

2016年5月28日(土) 午後2時～3時30分

＜キッズデープログラム＞

2016年5月3日(火・祝)～5日(木・祝) 東京国立博物館表慶館内特設コーナー

作品をモチーフにしたぬり絵や、モールを使った工作などのプログラムを実施

＜こどもの日スペシャル！ 黄金のナイトミュージアム！ in 表慶館＞

2016年5月5日(木・祝) 午後6時～7時半

学芸員による親子向けギャラリーツアーを実施。博物館内では子供たちが文化財について直接質問をする姿が多く見られ、次世代を担う子供たちの博物館への興味を喚起する企画となった。

■広報活動の充実

本展の開催を広く周知することにより、多くの国民に、優れた美術品を鑑賞する機会を提供した。

■入場料の無料化・軽減

一般、高校生(東京展)、高校・大学生、小・中学生(九州展)入場料を軽減した。

東京国立博物館→一般の入場料軽減 1600円→1400円

高校生の入場料軽減 800円→600円

小・中学生 無料

九州国立博物館→一般の入場料軽減 1600円→1400円

高校・大学生の入場料軽減 1000円→900円

小・中学生の入場料軽減 600円→500円

■小中学生向けガイドブックの作成および無料配布

出陳作品の見どころや素晴らしさ、アフガニスタンならではの文化財の性格を分かりやすく伝えるために、小中学生向けのガイドブックを作成し、無料配布した。

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

無し

4. 安全配慮に関する特別の対応

所蔵者や関係者と十分に協議し、西オーストラリア州立博物館(パース)から九州国立博物館へ輸送の際には乗継のシンガポールにて現地美術品輸送業者による機側立会を実施。安全な空輸に配慮した。また、国内陸送時には民間警備会社による警護を含め、万全の体制で輸送・展示作業にあたった。

展覧会会場の温度管理を徹底するとともに、会期中に日本に滞在していたアフガニスタン国立博物館の学芸員と密に連携をとり、展示品の状態把握に努めた。また、階段に滑り止めを新たに設置するなど、来場者の安全確保には細心の注意を払った。

5. 紹介事例・今後の改善点等

本制度の適用によって、2006年より世界巡回を続けているアフガニスタン展のアジア初となる日本開催が実現した。また、流出文化財保護日本委員会が15年もの長きにわたり、「文化財難民」として保護・保管してきたアフガニスタン流出文化財の返還も実現した。文化庁・外務省をはじめとする日本政府によるアフガニスタンへの文化支援なども踏まえて開催された本展覧会は、「広く国民にすぐれた美術品鑑賞の機会を提供する」という本制度の趣旨に合致したものであったと自負する。

本制度の適用については、チラシや展覧会ホームページで広く告知したほか、展覧会会場入口や公式カタログにも記載することで、来場者に対して制度の適用を強くアピールした。

6. 展覧会の収支決算書

主催者名

九州国立博物館、東京国立博物館ほか

●収入

内 訳	決算額 (当初予算額)
展覧会収入・その他の収入	37,673 万円
共催者負担	488 万円
収入総額	38,161 万円

●支出

内 訳	決算額 (当初予算額)
企画準備等基本経費	13,579 万円
設営・運営等会場関係経費	24,582 万円
支出総額	38,161 万円